

清流の国ぎふ

地歌舞伎 勢揃い公演

佐見歌舞伎公演実行委員会 (白川町)

白川町の佐見地域では、江戸時代より庶民の楽しみとして地歌舞伎が親しまれてきました。戦前は当地域に五軒の芝居小屋があり、特に昭和十年代には盛んに上演されていました。しかし、昭和十八年の公演を最後に、佐見歌舞伎は一時幕を閉じることとなり、昭和三十四年の伊勢湾台風などの被害によって、芝居小屋も全て失われてしまいました。

平成三年春、佐見中学校の体育館が竣工し、その記念公演として三十七年ぶりに佐見歌舞伎が復活しました。公演には二日間、約千人の観客が訪れ、大変な熱気に包まれました。

その後、不定期ながら公演を続け、平成十八年に佐見歌舞伎公演実行委員会を結成。以来、佐見中学校を舞台に公演を重ね、令和元年十二月に十二回目の公演を行いました。

また、海外でも地歌舞伎の魅力を発信しており、平成二十八年にイタリアで、平成二十九年にはマレーシアで寿式三番叟を披露し、高い評価をいただくとともに、国際交流を図ることができました。

先人が築きあげた地域の文化を後世に引き継ぎたいと、小学生は佐見小学校の授業の一環で地歌舞伎の練習を、大人たちは「佐見歌舞伎伝承教室」にて太夫、三味線、附け打ちの練習に励むなど、日々活動を続けています。



白雲座歌舞伎保存会 (下呂市)

白雲座歌舞伎保存会は、下呂市門和佐の白山神社境内にある芝居小屋「白雲座」を拠点に活動する地歌舞伎保存団体です。

この地区では、江戸時代より地歌舞伎の公演が行われていました。明治から昭和初期にかけては毎年のように公演が行われていましたが、戦後数年間続いた公演を最後に途絶えてしまいました。昭和四十年頃には芝居小屋の売却も検討されましたが、昭和四十六年に地元青年団が新劇を公演したことで地歌舞伎への取組みが再開しました。昭和五十三年、白雲座が国の重要有形民俗文化財に指定されたことを契機に、地元住民によって「白雲座歌舞伎保存会」が結成され、今日に至るまで、毎年十一月に白山神社祭礼で奉納歌舞伎を上演しています。

さらに、下呂市和佐出身で、歌舞伎座の絵描きをしていた松本千冬氏が約七十年前に手掛けた白雲座所蔵の舞台背景を、将来にわたって長く保存するため、「白雲座書割レプリカ実行委員会」による、複製作業を進めています。複製作業は全てボランティアによるもので、こうした文化財の保護・保全のために寄せられる思いが、一層、当地の地歌舞伎を盛り上げています。



新型コロナウイルス感染予防対策について

- ・手指消毒、検温及び分散入退場の実施など適切な感染防止対策を講じます。
- ・微熱等の症状がある場合は来場をお控えください。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、公演内容の変更または公演中止となる場合があります。

持っただけ!!

本公演より、
大向こう・おひねりを
再開します!



次回公演のお知らせ

清流の国ぎふ

地歌舞伎 勢揃い公演

5月28日(日)開催!

出演：いび祭子ども歌舞伎保存会(揖斐川町)
垂井曳軸保存会(垂井町)
東美濃子ども歌舞伎(恵那市)

※詳細はホームページにてお知らせいたします。

ぎふ清流文化プラザ
YouTubeチャンネル



地歌舞伎勢揃い公演の動画を配信中!



地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭礼で演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

「清流の国ぎふ」文化祭2024さきがけプログラム

地歌舞伎 勢揃い公演

2023年3月18日(土)

◆会場 **ぎふ清流座**(ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール)

◆開演 14時00分 (開場13時00分)

◆上演外題・出演

14時00分 (20分)

青砥稲花紅彩画 稲瀬川勢揃いの場

佐見歌舞伎公演実行委員会(白川町)

14時40分 (70分)

歌舞伎十八番の内 勸進帳

白雲座歌舞伎保存会(下呂市)

終演15時50分(予定) 演目等は変更となる場合がございます。



白雲座歌舞伎保存会



佐見歌舞伎公演実行委員会

イヤホン同時解説

演目の見どころやあらすじについて、
分かりやすく解説します。

東海学園大学客員教授 安田 文吉氏



青砥稿花紅彩画

稲瀬川勢揃いの場

佐見歌舞伎公演実行委員会(白川町)

桜咲き乱れる稲瀬川堤に、迷子を捜すと見せかけ、捕手達が待ち伏せをしているところへ、盗賊の張本 日本駄右衛門を筆頭に弁天小僧菊之助、忠信利平、赤星十三郎、南郷力丸らが揃いの傘に、それぞれの模様の衣裳で登場します。そして、ツラネと呼ばれる七五調の名台詞でひとりずつ名乗りを上げ、捕手達と大立ち回りを演じます。

◆ 配役

日本駄右衛門	細江隼真 (小学六年生)	捕手	安江晴汰 (小学五年生)
弁天小僧菊之助	安江柚菜 (小学六年生)	〃	服部すびあ (小学五年生)
忠信利平	熊崎奏人 (小学六年生)	〃	安江香穂 (小学五年生)
赤星十三郎	山口カエラ (小学六年生)	〃	安江葉奈 (小学五年生)
南郷力丸	田口夢月 (小学六年生)	狂言方	田島希実 (小学五年生)
捕手頭	飯盛苺衣 (小学六年生)	〃	安江結愛 (小学五年生)
捕手	長谷川環 (小学五年生)	〃	

歌舞伎十八番の内

勧進帳

白雲座歌舞伎保存会(下呂市)

兄源頼朝と不仲になり、追われる身となった義経。奥州藤原秀衡を頼りに、陸奥へ逃れようと、弁慶をはじめとする家来を連れて加賀の国安宅の関に差し掛かります。家来たちは山伏に変装し、義経は強力(荷物持ち)に変装しています。関守の富樫左衛門は、頼朝の命を受け義経を捕らえようとはしますが、弁慶は東大寺再建のための勧進(寄付集め)のために能登へ向かうと言います。どんな理由があっても通すことは出来ないという富樫。観念した弁慶は最後のお勤めをして覚悟を決めます。

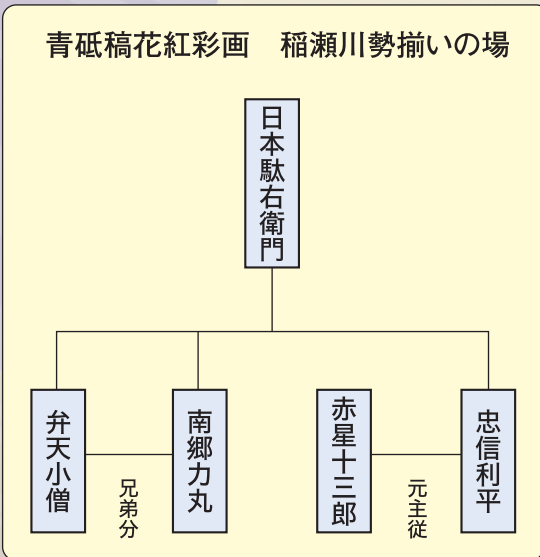
富樫は、「もしかしたら本物の勧進かもしれない。」と疑い出し、「勧進帳」を読めと言います。本当は手に取って見たいところですが、身分の違いから出来ません。弁慶は偽物の勧進帳を朗々と読み上げます。さらに確信を得たいと仏教の核心に迫る質問をぶつけます。弁慶は元々比叡山の僧のため、答えるのは朝飯前です。富樫は本物の山伏と思い、通ることを許可します。しかし、義経の顔を知っている家来が、強力が義経に似ていると言います。

弁慶は義経を金剛棒で打ち据え、「疑いあらば打ち殺して見せましょう。」と言います。義経一行であることを確信した富樫ですが、弁慶の命がけの忠義に感動し、一行が通ることを許します。弁慶は義経に詫言いますが、義経ははじめ家来一同、弁慶の機転をほめます。

富樫は先ほどの非礼を詫言、杯を交わし、一行との別れを惜しみます。弁慶は「延年の舞」で感謝を表し、一同は陸奥の国を目指して出発していきます。

◆ 配役

武蔵坊弁慶	細江和彦	常陸坊海尊	今井修	後見	細江健太
富樫左衛門	今井正規	太刀持	細江嘉苗子	〃	今井政行
九郎判官義経	今井絢哉	番卒甲	河原一馬	狂言方	細江克也
伊勢三郎	熊倉卓也	番卒乙	田口竹志	黒衣	今井鋭昇
片岡八郎	細江優弥	番卒丙	桂川隆行	〃	細江麻美子
亀井六郎	細江倍基千				



振付指導	市川福升
振付補助	桂川幸雄
太夫	竹本文
三味線	竹本美芳
	豊澤順八
	豊澤展八
下座	長唄
	杵屋喜朱雀
	加藤神威
鳴物	住田喜久次
	永山萌
	鳳川辰次
	住田尚子
	小野崎隆賢
笛	川上昌子
	川上章
化粧着付	市川寿々女
	市川美満寿
	市川三寿也
	桃田豊美
	井料田寿子
	内山亨恵
衣裳	川上貸衣裳

イヤホン同時解説

安田文吉氏

日本近世文学、近世芸能文化研究者。東海学園大学客員教授。南山大学名誉教授。日本歌謡学会常任理事。東海近世文学会代表。名古屋芸能文化会代表。名古屋三曲連盟理事長。令和元年度名古屋芸術特賞受賞。著書に『常磐津節の基礎的研究』(和泉書院一九九二年、東洋音楽学会田辺尚雄賞受賞)、安田徳子氏との共著に『歌舞伎入門』(おうふう、一九九五年)、『ひだまの地芝居の魅力』(岐阜新聞社、二〇〇九年)などがある。

